

(I) 身延山短期大学々園

図書館建設起工地鎮祭奉行

昭和六十二年一月廿三日(金)午前十一時より身延山短期大学構内旧東溪寮跡に於て、小雨をば降るなかで荘厳盛大に地鎮式が奉行された。大導師・身延山法主岩間日勇親下(短期大学長)。副導師・身延山総務望月一靖親下(学園理事長)。同・身延山短期大学々頭官崎英修先生。同・図書館長町田是正教授(建設委員長)。同・身延山経理部長中村義遵僧正(学園理事)。同・身延山法要部長永田寿和僧正(当日修法導師)。以下身延山修法師の中里悠光上人・玉田寛清上人・遠藤是淳上人・清水本彰上人・下里是豊上人・鈴木康雄上人等の出仕。学園短期大学々生諸君総出仕。本学助教中條暁秀先生進行役をつとめられ、地鎮堅牢を祈りて歛入の儀を望月一靖理事長、次で設計監督堀池秀人都市建築研究所長、続いて建築施工者東急建設株式会社田中泰彦取締役の三氏に依り執行、大導師法主親下に依って工事魔障無く工事円成が祈念された。

地鎮堅牢祭式の後、短期大学会議室に於て、祝宴に移った。

先ず学園理事長望月一靖総務様より図書館建築の目的と趣旨説明の挨拶、続いて堀池秀人都市建築研究所長より設計構造上の特色と機能についての説明挨拶、建築施工業者東急建設株式会社田中泰彦横浜支店長より工事完成への決意と祝意がのべられた。続き中村義遵経理部長の発声で祝杯をあげ、参席者一同互いに工事の完遂を念じつつ祝宴に入った。祝宴と懇親が和やかに進行、宴の締め括として町田是正図書館長より、建設委員長の大任を委嘱されたが気の休まる暇とてなく、工事落慶式典の日に笑顔となりたいとの挨拶、そして万歳三唱を以て当日の祝儀を終了した。

◇ ◇ ◇

此処で図書館建設について、昭和六十二年一月号「みのぶ」誌(身延山久遠寺刊)の巻頭に掲載されている岩間法主親下と望月総務親下のおことばの一端を転載紹介させていただきます。建設の重要性に就て、皆様の御諒解を得たいと思います。

◇岩間日勇法主親下御法話より◇

前略……身延山として今年度の事業は、かねて計画されていた身延山短期大学の図書館建設にいよいよ着工することとなりました。図書館は大学の生命です。講義も研究も、図書館の充実と深い関係があり、後につづく学徒の養成にも布教師の育成にも深い関わりがあります。……後略……

◇望月一靖総務親下御挨拶より◇

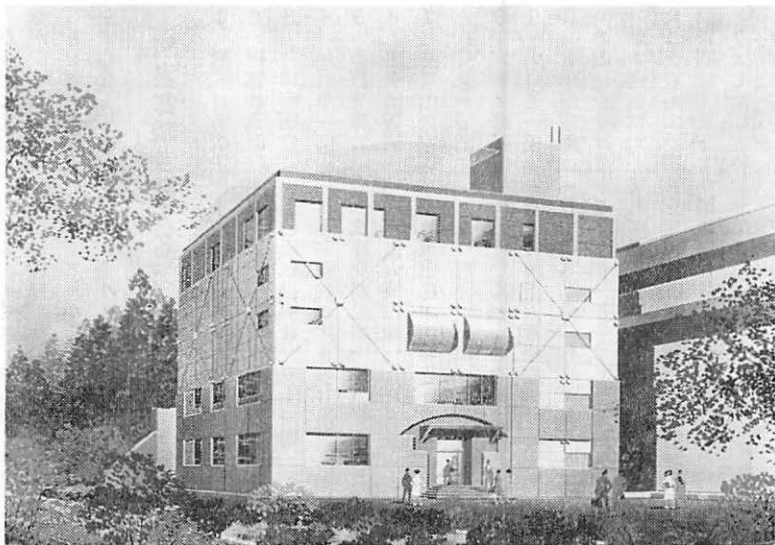
前略……この図書館の建設は身延山の大きな事業であります



図書館建設起工地鎮祭法味言上  
大導師 岩間日勇法主祝下



地鎮堅牢祈念「楸入儀」を執行する総務 望月一靖理事長  
(写真提供久遠寺熊王秀臣氏)



◇ 図書館完成（予想）偉容図 ◇

総延面積2,200㎡鉄骨鉄筋5階建。開架間寛20,000冊。書庫130,000冊収蔵可。  
設計監督一堀池秀人都市建築研究所 施工工事一東急建設株式会社横浜支店

す。……図書館は学校に所属させますが、広く法華経・日蓮聖人に関する書物、資料を集めることを第一目的として……宗祖棲神の地身延山から二陣三陣が輩出することを願ひ、真の祖山法華経信仰の中心地として行きたい。……図書館の建設は、いままで宗祖御報恩事業として皆様と御一緒に、立派な大きな館を画いてまいりました。（大本堂建立と諸堂宇建立整備等々―筆者注）その竜に眼を入れることに相当します。どうかこの趣旨を御理解頂き文字通り画竜点睛となるべく応分の御援助が頂ければ幸いです。……後略……

このように両殿下によって積極的な御発声をいただくことは、身延山学園に奉職する者一同にとって感激であり、同時に建設の完遂と、その充実に意を用いる責務を痛感し、法器養成に尽粋しなければならぬ覚悟新たなものがあります。身延山八十九世真乘院日康上人の強い発願であった学園図書館の建設が、現童岩間法主殿下・望月総務殿下へと継承御懇督の下に、学園教職員の渴望と同窓会諸聖の熱望とが愈々形となって現われる所となり、明年三月の竣工がいまやまたれる所となった。

（文責・町田）

## （Ⅱ） 図書館だより

本年も図書館運動に同窓生の各聖、有縁の方々より御高配と御高志を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

図書献本運動が盛りあがった中で、本学園の図書館建設の実施が決まり、一月二十三日には、その地鎮祭が行なわれましたことを報告申し上げます。これからも何卒、皆様方の御協力をよろしく切にお願い申し上げます。

### 図書寄贈者御芳名

- 1 岩間日勇法主祝下 「仏教難字大字典」
  - 2 阿部妙真師 「宮沢賢治全集」全十七巻
  - 3 井田兩國堂 「正法眼蔵提唱録」三十一冊
  - 4 尾谷卓一師 「日蓮宗現代に生きる日蓮聖人の信仰」
  - 5 金沢文庫 「金沢文庫資料全書」第八巻
  - 6 中条暁秀師 「愚直道人懐古録」
  - 7 身延山久遠寺 「日蓮宗総本山身延山久遠寺大本堂建立記念」等。
  - 8 宮崎英修師 「いわくいんねん故事来歴」
  - 9 山口晃一氏 「富士日興上人身延離山の研究」
  - 10 吉田龍慶師 「目でみる仏像『如来』の贈呈を受けております。
- 献本運動に対してして諸氏より御高配と御厚志を賜われましたこと衷心より御礼を申し上げます。
- ◎岩間法主祝下より図書館建設費として金貳百万円の篤志を賜りましたこと特記して謝意を表します。

### (Ⅲ) 「同窓会」本部だより

身延山学園にとって永年の懸案であり、また同窓各聖の宿願でもあった図書館の建設が、昭和六十二年一月二十三日、岩間法主祝下御導師の下に建築地鎮祭が奉行され、明春三月の完成を目指して着工いたしました。願くは仏祖三宝の御加護を仰ぎ、工事魔障なく完遂すること祈念いたす所であります。

同窓各聖の熱望と学園の発展に寄せる期待とが、ようやく形となって現われることを衷心より悦びたいと思えます。(図書館建設地鎮祭詳細に関しては別項「身延山学園図書館建設地鎮祭奉行」を参照してください)。

昭和六十一年度の本部の活動を簡単に報告いたします。

(1)同窓会々員名簿の発行(61年10月30日)

同窓生の名簿は、同窓生の動向を知る資料となるだけに、その発刊が十年來望まれてきましたが、発刊準備が遅々として進まず、役員皆様から督促をうけてきました。こうした現況に鑑み本部理事宮田如龍氏が積極的に煩瑣な事務的仕事を万端処理して下され、此処に十余年來の懸案に対して一応こたえることができました。(本部事務局の怠慢のために、名簿中の姓名、卒業年度、住所、等の脱漏、改姓名、などに関して誤記と不明の点もあり、お叱りもあろうかと思いますが、訂正などお気付の点を本部宛にお知らせください。

(2)同窓会本部役員会々議(61年10月30日)

会議当日が偶々和身会の開催日と重なったので、和身会員であり支部長でもある各聖の参集を得て協議が約二時間行われた。その協議の結果、(1)同窓会報を発行するとき、年度会費の納入(本部費千円、支部費千円)を徹底する勧告の記事を掲載すること。(2)毎年度卒業生の氏名住所(学事要覧)を支部長宛に送付して欲しい。(3)副会長林是幹上人御遷化に伴い、後任に中村正彦師(北九州市真浄寺住職)を選出し就任承諾を得た。(4)図書館建設資金の勧募を広く全国檀信徒にまで呼びかけては、との意見が出たが、身延山久遠寺との関わりも有るので、本山の意向に随うこととする。

(3)同窓会報 № 4号発行(61年7月10日)

会報には、岩間日勇法主泥下、望月一靖総務・理事長、同窓会長松井大周貫首、学頭宮崎英修先生、青森県支部長佐藤秀旭師からの熱誠あふれる寄稿を掲載、その他に会計報告、図書寄贈者、多額寄付感謝状贈者など報告した。

(4)図書館建設の勧募に寄せられた同窓各聖の浄財・金四千九百万円。(62年2月20日現在)。(以上)

## (V) 研究活動報告

### (1) 日本仏教学会

昭和六十一年度学術大会は、十月四日(土)・五日(日)の両日、同朋大学(名古屋市市中村区)において開催された。本年度の共同研究課題は「仏教と神祇」で、本学から高橋堯昭先生

が発表を行なった。

ハリテイとパンチカによる仏教の包容性とその基盤

高橋 堯 昭

### (2) 日蓮宗教学研究発表大会

第三十九回日蓮宗教学研究発表大会は、九月二十九日(月)・三十日(火)の両日、立正大学において開催された。本学からの発表者は左の四氏であった。

智願の二十五三昧

若 杉 見 龍

日蓮聖人の三世観

奥 野 本 洋

金網集の一考察

中 條 暁 秀

身延山と天台山

上 田 本 昌

### (3) 仏教文化講座について

本年度の「仏教文化講座」(公開)は、十二月五日(金・午前十時～十二時)開催された。講師は立正大学仏教学部の糸久宝賢先生、テーマは「室町時代における京都日蓮教団の形成と発展」であった。

なお昨年度は、昭和六十年三月七日(金)宮川了篤(立正大学仏教学部)先生が、「遠寿・智泉院両流の消長」と題しての講演であった。

### (4) 学内研究会

本年度の学内研究会は、左の三氏であった。